

学生の指導に 「民間力」吸収

松江高専

松江高専（松江市西生馬町、井上明校長）が島根県内の製造業などと協力し、若手の技術職員を対象とした「民間企業研修」に力を入れている。企業が持つ技術や経営手法、コスト意識などを学び、学生への指導に生かす。

若手技術職員の企業研修に力



小松昭夫社長④から経営について学ぶ三反田裕太さん＝松江市乃木福富町、小松電機産業

技術や経営学び 教員をサポート



学生にマイクロコントローラの仕組みについて説明する福島志斗さん(中央)。研修で学んだ民間感覚を生かし、指導している＝松江市西生馬町、松江高専

技術職員は、学生が授業で実験や実習を行う際、教員をサポートする。同校には非常勤を含めて計17人が在籍。2001年度には同職員でつくる「実践教育支援センター」（田辺喜一センター長）を発足し、人材育成に取り組んできた。

研修は05年度からスタート。同校と地元企業でつくる松江テクノフォーラム（杉谷

雅祥会長）の会員企業に依頼し、在籍2、3年目の20〜30代の職員1人を1社に2カ月程度派遣している。

これまでに受け入れた企業は、シートシャッター製造の小松電機産業㈱（松江市乃木福富町）▽システム開発の㈱ワコムアイティ（同市北陵町）▽電子部品製造装置など生産の島根自動機㈱（同市鹿島町佐陀宮内）▽電気・電子応用機器製造の㈱ニッポー島根工場（奥出雲町下横田）。

本年度は、三反田裕太さん

（26）が8月6日から9月29日まで、小松電機産業に出向いている。同社での研修受け入れは3回目。三反田さんは韓国から同社に来たインターン生と一緒にシートシャッターの製造現場で研修を積んだ他、製品の修理に同行。今回から新たな取り組みとして小松昭夫社長から「経営学」を学んでいる。

小松社長は経営で重要なキーワードとして「文化」「歴史」「イノベーション」の3点を挙げ、技術者として進化するためにも、経営の視点を持つことの大切さをアドバイス。三反田さんは「多くの出会いがあり、新たな考え方を学んでいる。さらに自己研さんを積みたい」と研修に励んでいる。

実践教育支援センターの福田恭司技術長は、これまでに参加した先輩職員5人は「いろんな場面で民間企業の価値観と対比して経験を役立てている」とし、学生への指導で成果を実感している。

また、06年に小松電機産業で研修を受けた福島志斗さん（29）は現在でも「全社員に共通していたコスト意識やカイゼンの気持ちを持って学生に接している」と、研修で身に付けた民間感覚を大切にしている。